

2018年度 第三回 現任研修 “さわやかフェスティバル” 開催♥

皆さま、ご参加ありがとうございました。

お天気も回復。10時から大勢のヘルパーさんが参加。

終了まで、会場のハウスは暖房を切るくらい、熱気と楽しい話し声に包まれていました。

今回の現任研修は、全員参加を目標に、半年以上構想を練り準備してきました。

いつもさわやか愛知のために活躍してくださっているヘルパーさんに、楽しんでいただきたい。研修に多くの方が参加できる方法は？さわやか愛知で働いていてよかったと思えるようなことがしたい。研修に参加して良かった、研修があったら、行ってみよう・・・そんな風に思っただけのもの企画したかったのです。

メイク・お肌チェックのビューティーアドバイザー、箱庭セラピー、カラー診断、最新の福祉用具体験、ハンドマッサージなど、外部からお手伝いに来てくださった方も、大盛況に嬉しい悲鳴を上げられていました。

研修会では「成年後見制度について」、「介護記録の書き方」を学んでいただきました。

また次回の現任研修も、勉強になり、大勢が参加できる企画にしたいと思いますので、ぜひご協力ください。

介護保険部 管理者 菊池・相羽

4面に写真がいっぱい載ってます ☞

ふれあい切符の話 第2回

「地域通貨」の動きは、1980年代の初頭から世界各地で活発化し、1990年代には、国際的に注目されるようになりました。

「G7サミット」（覚えてますか？）の頃です。

世界経済の特徴として「資本主義のグローバル化」が市場経済と各種コミュニティに大きな影響を与えた時代です。

国際的な社会分業が国民性・地方性という枠を超えて進展するうねりを生みだし、その一方でさまざまな地球規模の問題を表面化させていきました。

そこから、「市民の自己決定権」が、状況打破の切り札になると考えられたために、「地域通貨」が脚光を浴びたのでしょう。

箱庭セラピー



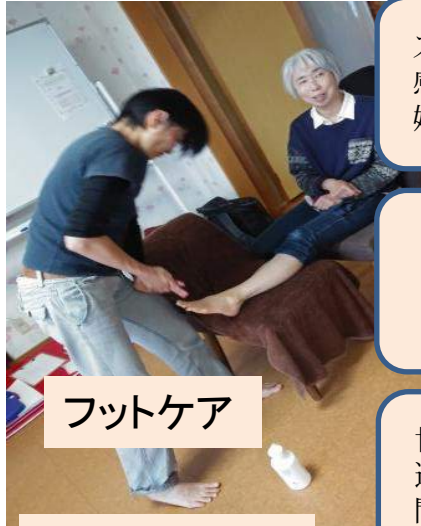
楽しんで、勉強して、自分磨きに役立てばと思います。(菊池)

カラー診断



メイク 肌ケア

勉強だけでなく、遊び・リラクゼーションなど楽しい時間を過ごせていただけたら嬉しいです。(川上)



フットケア

スタッフ全員の笑顔と、日頃の感謝の気持ちが届いていたら嬉しい。(水野)

毎年楽しみにしてくださる恒例のイベントになると良いと思いました。(中村)

世代を越えて長く楽しまれてきた遊びを私も思い出して楽しい時間を過ごしました。(竹野)



福祉用具体験

介護食試食



もと試食販売のプロ(私の母ですがアルツハイマーです)も楽しく参加しました。(島田)

ハンドケア



活動報告書は当日の様子をしらせることが重要とお伝えしました。(敷地屋)

今月の スポットライト

さわやか愛知とともに歩んでくださるケアワーカーの
一人ひとりをご紹介していくコーナーです。

第3回目のゲストは 佐々木 光代 さん

今日の佐々木さんの装いは落ち着いた色のレース地のジャケット、その襟元に「S」のピンブローチが光る。

「8人の曾孫がいるのよ」と微笑む。

さわやか愛知との出会いは、平成6年。

さわやか愛知のピンク色のチラシを持って、川上理事長の自宅へ行った。

「代表と話して、なんて先見の明がある人だろうと思った。」働くということが、お金のためだけでなく時間預託という形になること、人と集う場を得ることに関心を抱いた。

活動を始めた頃は大変なことの連続で、10時間のケアなんてざらにあったし、もちろん泊まりのケアも多かった。

あるときは、著名な人から新聞広告を見たと言って、付添の依頼がきたが、履歴書を提出し、厳しい秘密保持の条件を付けられて活動したというようなことも。

まだヘルパー業務が周知されてない時代だった。

「ヘルパーは家政婦じゃないのに」と思った場面も多かった。

しかし一人の利用者に二十数年にわたってケアが続くと、家族のようなつきあいに。

「帰ろうとするとその家の飼い猫が寄ってきて、猫たちのブラッシングで残業ねと笑った。」

全盲の利用者に詩集や百人一首を読むケアも印象に残っている。利用者の話が止まらなくて退室できないこともしばしばあったという。

「ケアが嫌だと思った事は一度もないの」「身内なら強く言えるけれど、我々は仕事だから。

ムツとすることもあったけれど、きついことを言われるのも含めて仕事だから。」という深い言葉を、さらっと放つ。

自力で生きていく決意を要する環境だったこともあって、仕事と割りきって、でも無理をせず続けてきた。

気づいたら、自分の居場所ができていた。そして、生きがいにも、なっていた。

「今は介護保険の時代だし、短時間で利用者も介護する人もビジネスライクな関係なのかしらね。

我々の頃は、さわやか愛知の看板を背負っているからへたな事はできないというプライドを皆が持って、きちんとした仕事をめざしていた。それを態度で示し、本当に対等の立場でケアをしていたわね。

たすけあいの精神を軽視すると、優しさにはつながらないものよ。」

理事長は、「佐々木さんは、金銭が目的ではないという態度がゆとりとなって現れ、多くの利用者に気に入られた。こんな上品な女性が来てくれるなんて、と喜ばれた。洋品店の経営に携わっていたので、おしゃれで、メイクもきちんとしていた。」と彼女の人物像を語る。

「私は、人との縁に恵まれていた。幸せなめぐりあいがたくさんあった。中でも、川上理事長との出会いがなければ、今ごろ何をしていたらと思う。」佐々木さんも目を細める。

「高齢になってからの独居は経験しないとわからないような感情が湧く。でも、高齢だから、独居だからと孤独に埋もれてはいけな。外に向ける目と緊張感を持って、社会参加という心構えが大切。私も月に二回は意識的に交流できる場に出かけるようにしている。

編み物教室は、作品を作ると同時に、若い人の話も聞いて気軽に話せる交流の場でもある。はじめをつけて自分の暮らしに責任を持って暮らしていきたいわ。」

毅然としていて、それでいて自然体で、物静かな語り口で。
傍らにいと、エネルギーを分けていただける女性でした！

次回は 福与登 さんです

1997年中日新聞の
記事の佐々木さん



さわやかデイサービス 近藤農園 大収穫！

さわやかデイサービスの畑には、イチゴやジャガイモ、レモンの樹など様々な作物がなっています。それもこれも、ヘルパー近藤幸夫さんのおかげなんです。草が生えると、きれいに取り季節の野菜を植えてくださっています。なかなか手入れが行き届かない私たちが変わって、いつも笑顔でお世話してくださっています。本当に暑い中、寒い中頭の下がる思いです。こうやって皆様の力で旬のおいしい野菜をいただける、感謝と幸せの気持ちでいっぱいです。

その、カボチャを使って「パンプキンプリン」を作りました。とても甘いみずみずしいカボチャで作ったプリンは格別！もちろん、畑作業中の近藤さんに食べていただだけ感謝を伝えることもできました。キノコ作りは…ホットケーキミックスですが旬の物、食を楽しみ、健康や笑顔につながる、大事ですね。

